

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail kohitsuji@imix.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：S R S株式会社

定 価：一部 30円

2013年 3月 20日

第 359 号

### 聖書に返ろう

理事長 稲松 義人

近くにある聖隷クリストファー大学で耐震化のために改築していた新5号館が竣工した。それに合わせてこれまで

2号館の中にあつた聖隷歴史資料館が新しい建物に移ることになり、展示もリニューアルされることになった。このミュージアムには、聖隷福祉事業団や聖隷学園の歴史だけでなく、聖隷とつながりのある十字の園や小羊学園の歴史も展示されている。小羊学園については、最初2003年の小羊学園特別展のために展示の準備をしたが、ちょうど支援費制度導入直前でバタバタと落ち着かない中で準備したことが思い出される。当時は、ちょうどつばさ静岡開設の話が出はじめた頃で、もちろん三方原スクエアもびびるすもまだなかった。展示の準備をするのは大変なところもあるが、自然とこれまでのあゆみを振り返ることができるとよい機会でもある。

今年度末には、小羊学園に長く務め、各施設の幹部職員を務めた方たち4名が定年となる。小羊学園での初めての通所施設小羊ダイケアホームを開設した山崎陽司氏(現在三方原スクエア施設長)、支援センターわかぎ施設長の松原康好氏、同事務長の小原英世氏、旧小羊学園・若樹学園・おおぞら療育センター

を歴任し、今はつばさ静岡事務長の羽山純氏も定年を迎える。山崎氏以外は、再雇用制度により小羊学園には留まることになっているが、管理職については次世代の人たちに交替してもらおうことになつている。

小羊学園も法人格をもった団体である。団体が行う社会福祉事業は、必要とされる限り、時代を越えて継承していかなければならない。創立者が仕事をほじめたときには、もちろんその時代のその地域のニーズがあつた。特に営利を目的とした事業の場合には、しばしば創立の精神と言われる事業に対する理念があり、そこに創立者の思いが込められていると思う。

聖隷歴史資料館に展示される団体には共通点がある。そこに働いた人たちの人間関係や、事業展開による経過的なつながりもあるが、大切なのは、どの団体も、教会(キリスト教を信する者たちの群れ)の中に起こされた働きであるということだと、聖隷学園の長谷川了理事長は言われる。

小羊学園の歴史は、聖隷福祉事業団や十字の園よりは短いが、それでもすでに、創立者の山浦俊治先生を全く知らない職員が増えてきている。さらに年数が経つともっと増えていくことだろう。歴史を振り返ると先輩たちが何をしてくたのかを知ることが出来る。しかし、そこに関わった人たちが、何を大切に

てそれを成してきたかは、その人の思いを聞かなければ知ることはできない。また、自分たちが何をどのようにするかは、時代によつて当然変えていかなければならないことがあるが、創立の精神の中には、時代を越えても継承すべきことがある。継承すべきことを感じながら、創立者の思いを直接知る者は少なくなつていく。これは、いつの時代もどのような組織であっても、経営責任者の共通の悩み(テーマ)ではないだろうか。

しかし嘆く必要はない。私の手元には聖書がある。聖書は、世界の歴史を貫いて、その時代その時代の進むべき道を求める人たちに、なすべきことの方向性を示し続けてきた。マザーテレサも、シュヴァイツァーも、聖隷の長谷川保氏も、そして小羊学園の創立者山浦俊治先生も、聖書の中からその働きの理念を立ててきた。

もちろん職員一人ひとりには信教の自由があるが、小羊学園が成そうとしてきた働きの原点は、聖書の中に示されており、それを道しるべとして、事業展開してきたことを、小羊学園の次の時代を担う人たちにも忘れないでほしいと心から願っている。

新しい聖隷歴史資料館の入口にも、創立者から受け継ぐ聖書の言葉と、弟子たちの足を洗うキリストの姿が展示されている。是非一度ご覧下さい。

## 小羊学園 法人研究発表会

小羊学園では、毎年2月に研究発表会を開催しています。法人内から6題の日々の実践に基づく分析・研究を発表されました。その中で優秀賞に選ばれた発表をご報告します。

### Tさんのより良い生活のために

#### 〜コミュニケーションツールを探る〜

三方原スクエア成人部 むつみの家 伊藤 卓

#### ケース概要

対象者はTさん 34歳男性です。重度発達遅滞に加え、両側高度感音性難聴と斜視・弱視があります。難聴の診断を受けた後、隣県にある聾唖児施設に入所し6年間を過ごされています。しかし、多動で水や火に興味がある事から聾唖児施設での対応が困難であるとの判断により、11歳で小羊学園児童寮に措置変更となり、現在は4年前に移転改築した三方原スクエア成人部のユニット「むつみの家」での生活に至っています。三方原スクエアでの主な過ごし方として、平日の日中時間は、施設外グループ「みらい」の活動に参加し、休日はむつみの家にて生活されています。

#### 事例に挙げた理由

Tさんのユニットでの生活を考える中

で、平日に比べて週末に不穏状態になることが多く見られました。興奮がエスカレートすると長時間に至り、眼の横を叩く自傷行為や物を投げる、体を回転させる、洗濯機の中に頭を入れる、走ってトイレへの行き帰を繰り返す等の行動も度々見られ、夏場の興奮時には過度の発汗状態となる事もあります。職員もそのような本人の状態に対してクールダウンできる方法を以前より模索しながら、Tさんが自分の要求を職員に伝えるための写真を記載した「リアクションカード」を用いたり、休日の過ごし方を理解するためのスケジュール提示を行なってきましたが、なかなか不穏状態の減少には至らず、あらためてTさんの安心した生活が実現できるようにリアクションカードの活用方法とスケジュール提示の再検討を行う事となりました。

#### 取り組みと経過

このような現状を踏まえ、まずは過去からTさんと関わってきた職員を中心に、不穏時の原因と対応方法の成功例、本人の好きな事などをアンケート調査する事にしました。そしてそのアンケートを基に、聴覚障害のある本人の要求を理解する事と共に、今まで活用してきたスケジュールの提示方法の見直しをする事を目的に視覚的なコミュニケーションツールを作成する事としました。

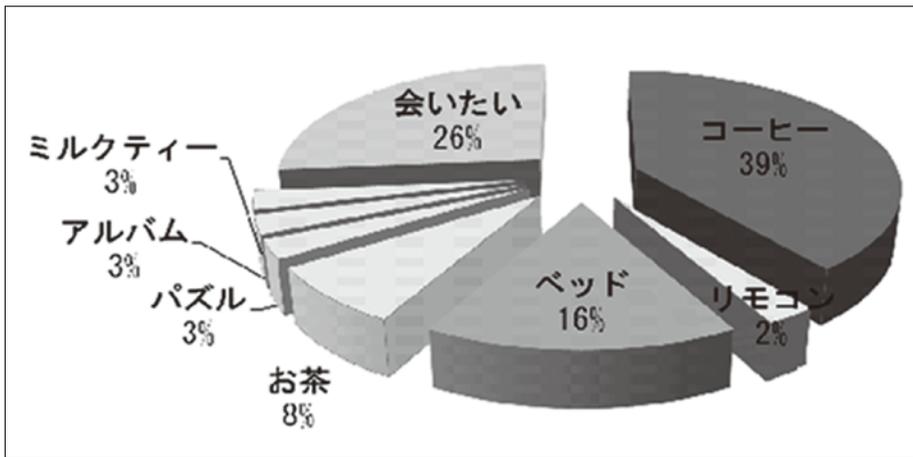
参考にしたアンケート内容は次の通りです。①不穏になる原因は何？という質問に対して、伝えたい事がある、不満があるのではないかという意見がありました。②スケジュールが見通せないという不穏になるのか？という質問には、生活の流れは決めた方が良い、絵カードやマカトン法(ジェスチャーを用い障がいのある人も理解しやすいコミュニケーションツール)は必要ではないかという意見がありました。③不穏状態から落ち着く事ができた支援方法は？の質問に対して、本人のしたい事を好きな様にしてもらう、指差しをする、場面転換をする、ジェスチャーの伝達を試行する等がありました。④本人の要求は何？という質問に対して、コーヒーを飲む、外出する、アルバムを見る、入浴する、食べる事、TVを見る、感覚遊びをする、落着ける場所に居たい等が挙げられていました。これら

を参考に「リアクションカード 17枚」と「スケジュールボード」を作成していきました。リアクションカードの内容は、コーヒーなどの好きな飲み物の写真カードが8枚。その他、好きな利用者に会いたい、テレビのリモコンが欲しい、アルバムが見たいなどの写真カードが9枚です。それを職員が共通に認識できるようにそれぞれのカードに名称も明記しました。これらのカードはTさんの意思を確認するために活用していき、自由時間の充実、あるいは情緒が不安定になってエスカレートする前の問いかけの手段としても使用しました。また、カードはウエストポーチに入れて常に職員が身に付けておく事で、いつでもTさんとやり取りができる状態にしておきました。

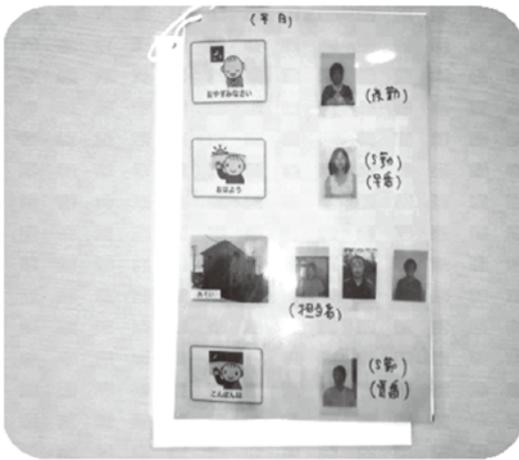
#### 結果

このリアクションカードによる関わり





を实践した結果は次の通りです。1位の「コーヒー」は大好きなので飲みたいと要求が多く、2位の「好きな利用者に会いたい」は、手を引いてどこかへ行きたいとアピールがあった際に、別ユニットの「なごみの家」へ職員を連れていく事があったことからカードを制作したところ、要求として表れるようになりました。3位の「ベッドで休みたい」については、通



常は鍵を解放してある居室も、ショートステイ利用者との関係でやむを得ず施錠していることがあったために開錠してほしいという要求として表れました。その他も「〇〇が欲しい」というリアクションがありましたが、この要求にどう応えていくのかは新たな課題となりました。

次にスケジュールの提示方法です。入浴後に行っていた本人が好きなコーヒータイムの時間を利用し、翌日のスケジュールと担当職員のカードを本人と確認しながら、スケジュールボードにTさん自身に張り付けてもらいました。そしてこのスケジュールボードは、日常的にもTさんと一緒に度々その内容の確認ができるようにキッチン内の冷蔵庫側面に貼り付けるようにしました。

このような関わりを毎日行なうことで、

写真の内容を顔に近づけて本人が確認できるようになったり、好きなコーヒーを飲む穏やかな時間に職員との関わりを通してスケジュールの確認が行えたことで情緒の安定が図れました。

**考察**

リアクションカードについてはウエストポーチに携帯しておくことが有効でした。これはカードを携帯した職員の周りで何か訴えたような様子や、職員の肩を叩いて本人が要求してくる様子が見られたからです。反対に、要求に答えられないカードを選んだ際の対応としては、単に「×」のジェスチャーをしてもTさんはその状況や理由を理解することは難しい事も配慮しながら、その場面で受け入れることのできるカードのみを携帯しておく事も必要であると感じています。スケジュールボードについては、

提示するカードを増やしていきたいと感じている一方で、カードをどこまで理解することができるのかを判断していく事も必要だと感じています。また、現在、平日と休日の区別がついていないと捉えているので、認識できるための工夫も更に検討していきたいと思っています。

この取り組みを通して、様々な障害特性を持ち合わせているTさんの要求や想いをくみ取り、できる限り本人のニ

ズにその場で応える事ができる環境や方法を整えていく事が必要であると感じました。また、今回の成果はカードやボードなど形としての取り組みだけでなく、Tさんの想いを職員がくみ取り、好きなコーヒータイムでゆったり向き合いたい、本人の要求にその都度応えてゆくという職員との関係性の構築も情緒安定に繋がる大きな要因だったと思います。

今後は、5歳からの6年間を聾唖児施設にて生活していた経験も考慮し、現在のリアクションカードやマカトンに加え、手話も新たなコミュニケーションツールとして活かせないかも探していきたい、Tさんがより豊かで、安定した生活が送られるように支援していきたいと思っています。

**小羊学園創立感謝祭  
日程変更のお知らせ**

例年4月末に行っています創立感謝祭ですが、今年度は**7月6日(土)**に行います。

併せて、神田均先生(旧法人監事・現県ボランティア協会長)の講演会も企画しています。

次号にて、詳細をご案内させていただきます。

管理者退任のご報告

社会福祉法人小羊学園では、平成25年3月末日を持って左記の4名が定年を迎え管理職を退任します。

■山崎 陽司

三方原スクエア施設長

■松原 康好

支援センターわかぎ施設長

■小原 英世

支援センターわかぎ事務局長

■羽山 純

つばさ静岡事務局長

※山崎氏以外は再雇用

「弱さの求心力」に魅せられて

三方原スクエア 山崎 陽司

山浦先生の著書「この子らに愛を教えられて」の中に「弱さという求心力」という文章があります。私はこの文章が大好きです。

35年前、小羊学園で働くことになりました。「弱さの求心力」に魅せられた一人です。知的障がいがある子どもたちのために何かをしたい。何かお役に立ちたい。そんな思いで働き始めました。そして今、その道のりを振り返るとき、いったいどれだけのことができたというのでしょうか。それよりも自分自身が弱くて情けない者であることに何度も気付かされ、その度に小羊学

園の子どもたちからたくさん力を与えられたことが思い出されます。

また、共に働いた職員をはじめ、利用者のご家族、関係した多くの施設（事業所）や行政の方々、さらには、教会の方々や小羊学園を支える会の方々など、本当に多くの方々を支えられながら今日まで歩んで来ることができました。このことを改めて思い起こし、心から感謝申し上げます。

もう一つ、この仕事に携わる中で学んだことは、「人に寄り添い、共に歩む支援（関わり）」です。近頃では、体罰と称して学校の部活などで指導者からの暴力が社会問題となっています。力づくの関係からは、人を変える力は生まれません。その子どもたちの特性を正しく理解し、何故そのような行動を取らざるを得なかったのかという子ども心に寄り添い、一緒に悩みながらその解決策を探っていくことが、新しい関係を生み出していくのです。「寄り添い、共に歩む支援」をこれからも小羊学園は大切にしたいと願っています。私に「退職をして何をするのですか？」とよく聞かれます。照れもあり、はつきり答えることができませんでした。これまでの私を支えてくれたものに、家族の存在があります。特に妻は志を一緒にして働いてきてくれました。今は親の介護で仕事から離れています。その妻とこれからも一緒にいたいのです。一緒に何をするかは秘密です。

東北被災地支援レポート

平成25年3月11日

支援センターわかぎ 金森勇人

東日本大震災から2年の月日が経ちました。被災地の様々な場所で追悼式が行われました。

一日でも早い古里復興...

これからを生きる未来の子とまた

すへ引き継ぐために...

故郷へ帰りたい...

故郷を愛している...

亡くなった家族友人のためにも...

もう2年...

まだ2年...

心の傷はまだ癒えない...



追悼の祈りを捧げる

現地の皆さん、追悼の時には多くの事を考えたと思います。皆さんはこの日に何を思っただけで過ごしましたか？

先日、福島原

発20km圏内の南相馬市小高区へ行きました。警戒区域のため、復興にかなりの遅れがあります。2年経った今、小高



放射能で撤去できない住宅



陸にあがったままの船

の方はこの状態の町を見てどう思うのでしょうか... 皆さんの町が2年間この状態であった時、あなただったら何を思いますか？

小羊学園を支える会

2013年度寄付金報告

2月受付分 611,520円 (31件)  
累 計 5,755,228円 (424件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785  
口座名義 社会福祉法人小羊学園  
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785  
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。小羊学園を支える会事務局(鈴木) 三方原スクエア内 ☎ 053-414-1833

編集後記

これまで法人を引っ張ってきた管理者がこの3月で退任される。世代交代に向けて準備を進めてきたが、いざ直前に迫ると重い重圧を感じる。先輩たちに恥じぬよう、また利用者に充足してもらえよう、一同邁進していきたい。日々、春の気配が感じられます。どうか皆さまお身体ご自愛下さい。(F)